

#### IV 漁業生産

##### (1) 沖縄県に於ける総漁獲量及び海域別漁獲量

沖縄県に於けるアオリイカの総漁獲量は昭和45年147トン、46年190トン、47年129トン、48年132トンであった。漁獲量からみると、沿岸漁業の魚種別統計では、下位にランクされるが漁獲金額からみると、マチ類、タイ類、タカサゴ類に次いで上位にランクされる。また単一魚種としては1、2位に位置するものと思われる。海域別漁獲量をみると図-11に示すように中城湾、金武湾海域で31.8%で最も多く、次いで県北部20.2%、県南部18.6%、八重山17.1%、宮古10.1%、県中部西側2.3%、中城湾、金武湾海域での漁獲量の内中城湾での漁獲割合が83%を占めており、全沖縄のアオリイカ漁獲量中約4分の1以上を中城湾海域で漁獲している。

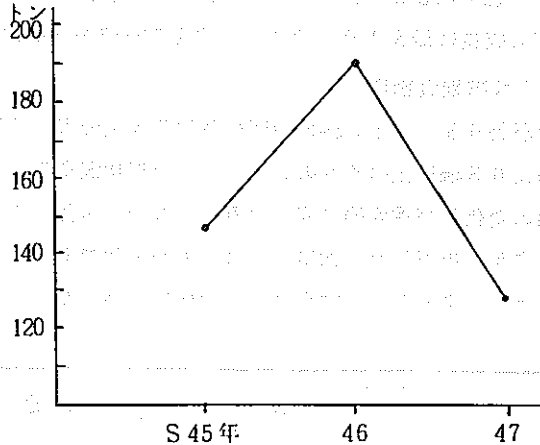


図-10 沖縄県のアオリイカ漁獲量の経年変化

##### (2) 漁業種類別漁獲量

アオリイカの漁獲量は前述したように129トン～190トンの範囲にあって近年は減少または横這いの状態である。業態別漁獲量をみるため、中城湾、金武湾を主漁場として、海域の特性を生かした追込網漁業を主体とする勝連漁協及びイカ曳を主体とする糸満漁協の業態別漁獲量を図-12-図-13に示した。

アオリイカの漁業生産における業態別漁獲割合をみると海域の環境条件の差により若干異なるが中城湾、金武湾を地先にした勝連漁協では追込網が40～50%、イカ曳35%

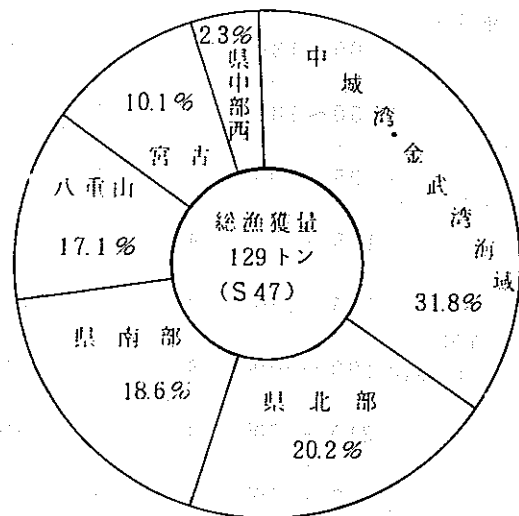


図-11 海域別漁獲量

マス網、建干等で25%程度となっている。糸満漁協ではイカ曳が90%以上の漁獲を上げており、また追込網による漁獲もかなりの比率を占めるが市場を通さないため実数は把握し難い。勝連、糸満両地区の例からみて全县においてもアオリイカ漁業の主要形態をなすもの